



# 第15回 日本体験学習研究会全国大会 大会報告

発行：第15回日本体験学習研究会全国大会運営委員会事務局  
発行日：2014年2月13日

## 『温故知新』

### —参加者が主体となる学びを探ろう！—

第15回日本体験学習研究会全国大会を終えて

日本体験学習研究会第15回全国大会も、たくさんの参加者のみなさまのご協力のもと盛會に終えることができました。今年は「温故知新—参加者が主体となる学びを探ろう！—」というテーマで、企画・運営を行いました。エクササイズセッション、新しくオープン・セッションを実施し、できる限り自由なプレゼンテーションとディスカッションが行なわれること、またそこにいる参加者が相互に学び合う場が生まれることを願って開催しました。参加者の皆様からはたくさんの学びが得られたとの声をいただき、ホッとしています。

今回は、第15回記念大会ということで、星野欣生先生に「体験学習のプログラムでたどる私の40年の足あと」と題して、90分の記念セッションをお願いすることができました。星野先生の40年という重みのある歩みと、その足あとに残された体験学習のとても大切な考え方を聞かせていただくことができたことは、体験学習を実践する私たちにとって貴重な時間になり、学びになったことと思います。

また、全国規模の学会や研究会としては、懇親会への出席率はかなり高い会だと思えますが、例年にまして懇親会の場も大いに盛り上がりました。こうした参加者の方々とセッションを通して、また懇親の場を通して学び合えるつながり合える研究会をさらに充実していきたいと考えております。

来年度も第16回大会にて多くの方とお会いできることを楽しみにしています。

第15回日本体験学習研究会全国大会 運営委員長 津村 俊充

## オープン・セッション報告

オープン・セッションは、新たな試みとして本大会より導入されたセッションでした。「オープン」とは内容・形式については、時間配分も発表者に任されていることを表しています。具体的には、体験学習の実践報告、ミニ実習の実施、参加者の方々とディスカッションなどの形式があり得ました。

今回は、4件の発表がありました。中村美枝子さんの「ふりかえり用紙の質問項目の検討—未来志向の項目をデータから考察する—」では、未来志向の質問に関するデータ分析の結果と説明があった後、ワールドカフェ風のセッションで「どのような質問をすれば未来志向につながるのか」といった点について意見が交換されたようです。杉山郁子さんの「実習今昔—どのような学びの場を提供していますか—」では、実習に関する説明があった後、様々な実習について意見交換がされたようです。北添慎吾さんの「体験学習を導入した建設業の安全教育・訓練への試み」では、事例の説明の間に、その体験やそれに関する意見交換がなされたようです。中尾陽子さんの「ハンドベル演奏してみませんか？—ハンドベル演奏活動の可能性を探る—」では、ペアになりハンドベルの練習をしたり、全体で合奏をしたりした後、全体で感想を共有するという時間があったようです。ハンドベルは最後の全体会で披露されました。

このようにそれぞれの問題意識に合わせて時間が使われたセッションでした。今後は、時間の長さについても検討しながら、より実りの多いセッションの形式にしていけたらと考えています。

(文責:土屋耕治)

## 初めて参加の方のための ワークショップ【A】 報告

1日目の午前中には、例年のようにラボラトリー方式の体験学習を初めて体験する方へ向けたワークショップを参加者18名で行いました。

まず、ラボラトリーの体験学習で大切にされているねらいの設定をしました。全体のねらいは①ラボラトリー方式の体験学習の学びを知る。②自分の想いを大切にしたい伝え方を試みる。③他者の話を聞くことで自分がどのような影響を受けるかに気づく。の3点でした。また1人1人の「私のねらい」を設定していただきました。その後、杉山さんが「体験から学ぶということ」についてのレクチャーを行いました。レクチャーでは体験学習の循環過程〈体験〉―〈指摘〉―〈分析〉―〈仮説化〉―〈試行(体験)〉について、さらに〈コンテンツ〉と〈プロセス〉という人間関係を観る2つの視点について話されました。

実施されたプログラムはコンセンサス実習でした。「地球消滅」というもので、地球が今日から数カ月後に消滅するという設定で、その時まで自分がやりたいことの順位を付け、コンセンサスによりグループでの順位を決定しました。その話し合いは時間を延長するほど熱心に行われました。

その後、グループでの話し合いをふりかえる時間を持ちました。ふりかえりでは、具体的な体験を通して自分自身の特徴に気づき、普段と違う自分を発見することができたことなどが話されました。また、コンセンサスの過程で気づいたお互いの影響関係などに関するフィードバックも行われました。

体験のまとめとして JOHARI の窓について杉山さんから話されました。最後に、日常で学びをどう生かすか、ファシリテーターのあり方、参加者の参加度の差異の問題などについて質疑応答がなされました。

熱心な参加者の方々に支えられて充実した時間を過ごすことができました。

(文責:日高碧・川本千恵美)

## 経験者のための ワークショップ【B】 報告

2日目の午前に、ラボラトリー方式の体験学習やワークショップ形式のファシリテーターを経験したことがある方を対象として、津村さんをメイン担当者として「プログラムデザインで大切なことを考える―参加者主体となる学びのプログラムを探ろう―」というタイトルでワークショップを実施しました。事前の申し込みで早々に満員御礼となり、このテーマに関する皆さんの関心の高さを感じました。

当日の概要は以下の通りです。

はじめに画用紙を用いて「今の気持ち」を表現し、3人組でワークを行いました。さらに、「今日の学びたいこと・取り組みたいこと」について各自で明確にしたのち、自分が考える「プログラムデザインで大切なこと」をふりかえりました。

次に、5～6人のグループを作り、まずは「今日の学びたいこと・取り組みたいこと」を中心に自己紹介しました。その上で、各グループで「プログラムデザインで大切なこと」を模造紙を用いつつ、話し合いました。マインドマップを用いるグループ、付箋を用いるグループなどなど、グループの個性の表れる、参加者主体の話し合いが展開していたように思います。熱心な話し合いは40分以上も続きました。

休憩後、各グループでの話し合いの結果を3分で発表し、全体でのシェアを行いました。そこで発表された内容は、共通のこともあれば、他のグループにはない視点など多岐にわたり、感想や質問などを伝え合う中で「プログラムデザインで大切なこと」への理解を深めていきました。津村さんより、多くのグループで言及されていた「学び場の構造化」や「参加者のニーズ」というポイントについてコメントがありました。

その後、グループでの話し合い自体について、ふりかえり用紙に記入した上で、グループでシェアリングし、津村さんからの小講義とすすみました。小講義は時間の関係で要点を絞ったものとなりましたが、そこでのポイントの多くが、グループ発表でまとめられていたものであり、このこと自体、体験学習という学びの価値を示しているように思いました。

最後に、各人の「今日の学び」を画用紙に記入した上で、グループでシェアし、ワークショップを終了しました。終了後の各グループのメンバーの表情がいきいきとしていたこと、お互いに笑顔で挨拶されていたことが、このワークショップのすべてを表しているようにも感じ、ご一緒させていただき、ありがたかったなと思いました。

実習自体と講義内容が有機的に関連しつつ展開していったので、参加者は体験学習を手がかりにしながら、自分自身にとっての参加者主体となる学びのプログラムについての気づきや発見を深めていかれたように思います。

(文責:坂中正義)

## 第15回記念・セッション報告

### 『体験学習のプログラムでたどる私の40年の足あと —プログラミングとは を考える—』

講演者：星野欣生先生（南山短期大学 名誉教授）

星野先生がファシリテーターとして経験された40年の歩みについて講演されました。

星野先生は、ファシリテーターを“プログラムデザイナー”と位置づけ、説明されました。『大会プログラム』の要旨にも記されているように、プログラミングのポイントとして、以下の5点を挙げられました。

- “学ぶ人中心”であること —学びの主人公は研修参加者
- キーワードは“受容”
- スキルは“観察”と“フィードバック”
- プログラミングは“川のように流れている”こと
- “自己フィードバック”ができること

そして、プログラミングの具体例として、

- 1)1年間通年のプログラム例
- 2)参加者が多人数の場合のプログラム例
- 3)研修が短時間の場合のプログラム例
- 4)中間管理職対象のプログラム例
- 5)企業の人事教育担当のプログラム例
- 6)チームづくりの合宿研修のプログラム例

を紹介くださいました。

報告者にとって、印象的だったことを2点だけ挙げます。

第一は、ファシリテーターのスキルとして“観察”が重要で、研修中は座らないとおっしゃられた言葉、そのままに、講演中、座らずに、講演し、質疑に応答された、その姿勢が印象的でした。

第二は、以前、ラボラトリー方式の体験学習では、「変革」(change)が目指されたが、現在日本の社会状況を考えると、その目指すものは「成熟」だと考えている、との言葉でした。

(文責:楠本和彦)

## 全体会報告

第15回日本体験学習研究会の全体会を南山大学大学院教育ファシリテーション専攻M1(一年次生)4名が担当しました。M1がプログラム作成に心がけたことは、参加者が本大会でさまざまなプログラムに参加したことをゆっくりふりかえり、今後活かせることができる時間を提供することでした。そのため、ねらいを「2日間の体験から気づいたことや学んだことをふりかえり、明日からどのように活かすかを考える」ことにしました。

全体の流れとして、初めに参加者に大会スケジュール表を見ながら2日間をふりかえる時間をもってくださいました。その後、グループ(4人1組)をつくってもらい、自己紹介を行いました。セッション1として「(a)今のきもちが…」、「(b)どのような体験をされましたか?その体験から感じたこと、気づいたこと、学んだことは…」を各グループでわかち

あいを行いました。次にセッション1でのグループのわかちあいもふまえ、セッション2で「(a)気づきや学びを、今後どのような場面で、どのように活かしたいですか?」、「(b)ご自分へのエールをひとこと!!」を個人記入してもらい、同じグループでわかちあいを行いました。最後に全体で今伝えたいことを自由に発言してもらい形でわかちあいを行いました。全体会をふりかえって、参加者に2日間をゆっくりふりかえることができる時間を提供でき、場も和やかな雰囲気をつくることもできたのではないかと思います。

参加者の皆さんが全体会で2日間のふりかえりをした体験が、これからの生活に活かされていると幸いです。

(文責:菱川慎司)

## 会計報告

みなさまのお陰で、第15回大会も無事に黒字で終えることができそうです。(年度末までにはまだ出費がありますが、それを含めても大きな赤字にはならないと思われます。)

今回の大会も、昨年に引き続き大会参加者数が減少したため、収入総額が減ってしまいました。また、新しいPCソフト導入に伴い、事務局費の増加を避けることができませんでした。しかし、内部スタッフに活躍してもらうことで、謝礼金の支出を減らし、大会運営費を抑えることができました。今後も、日々の節約と工夫に努めながら、会を運営していきたいと思えます。

なお、茶話会・懇親会共に、参加者の方々から頂戴いたしましたお品により、充実した内容のお菓子やお酒をご提供することができました。みなさまのあたたかなお心遣いに感謝申し上げます。本当にありがとうございました!

(会計:中尾陽子)

### 【収支報告】2013年12月31日現在

#### 大会

##### 【収入の部】

大会参加費	398,000
広告協賛	130,000
その他	1,349
計	¥529,349

##### 【支出の部】

印刷費	118,169
郵送費	6,560
事務局費	45,900
大会運営費	306,449
計	¥477,078

大会収支総計	¥52,271
--------	---------

#### 懇親会

##### 【収入の部】

懇親会参加費	215,000
--------	---------

##### 【支出の部】

懇親会費	198,055
------	---------

懇親会収支総計	¥16,945
---------	---------

全体の収支総計	¥69,216
---------	---------

## 第 16 回大会に向けて

～第 16 回大会は 2014 年 12 月 6 日(土)・7 日(日)です！～

第 15 回大会にご参加いただいた皆様、お越しくださり、大会を盛り上げてくださり、誠にありがとうございました。来てくださった参加者の皆様、計画と準備に携わってくださった運営委員の皆様、そして、当日の大会運営に力を貸してくださった南山大学大学院教育ファシリテーション専攻の M1 と学生スタッフの皆さんに感謝申し上げます。

来年度の第 16 回日本体験学習研究会全国大会も南山大学で開催します。大会の日程は 2014 年 12 月 6 日(土)と 7 日(日)の両日です。今年度の第 15 回大会の閉会の際に、大会委員長津村さんが「来年の大会は大感謝年としたい！」と宣言しました。私達運営委員はラボラトリーで、毎回の大会で新しい試みをしています。来年の大会はいつもとは一味も二味も違う大会になりそうな予感です。大会に関する情報は基本的に E メールでお知らせしています。日体研通信のメールアドレス登録をなされていない方は、以下の大会事務局アドレスに、タイトルを「通信希望」と記して、お名前とメールアドレスをお送りください。

第 16 回大会の運営委員の募集も、これまでと同様に完全公募制で行います。2014 年 5 月頃にお送りする予定の日体研通信に、運営委員の募集と第 1 回運営委員会の日程を記して、次回大会の運営委員を募集します。次回の大会、是非一緒に創っていきましょう。

第 15 回日本体験学習研究会全国大会 事務局長 中村和彦

### 【第 15 回日本体験学習研究会全国大会 運営委員会】

委員長:津村俊充 事務局長:中村和彦

委員:伊藤由美子、川本千恵美、楠本和彦、坂中正義、鯖戸善弘、杉山郁子、土屋耕治、中尾陽子、畑山知子

菱川慎司、日高碧、古田典子、村岡千種

(五十音順)

(事務局)水野菊代

共催:南山大学人間関係研究センター

協力:心理人間学科合同研究室スタッフ(亀垣美由紀・平田麻予・檜原真理子・山浦智子) および、心理人間学科 学生スタッフ

### 【大会運営委員会事務局】

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18 番地 南山大学人文学部心理人間学科 (中村研究室内)

TEL:052-832-3111(内線 3959) FAX:052-832-3217

E-mail:[nittaiken-jimu@nanzan-u.ac.jp] URL:[http://www.nanzan-u.ac.jp/~tsumura/](2014 年 4 月より変更予定)